



区のお知らせ

足立区
編集 / 社会教育部社会教育課
足立区千住一丁目4-18
☎ (882) 1111
第二庁舎 ☎ (889) 6161



国際婦人年シンボルマーク
平等・発展・平和

足立区婦人問題会議中間答申特集号

婦人問題の解決をめざして あらゆる分野への男女の共同参加を



去る8月8日、水島会長より区長に中間答申が手渡された。

国連では、1976年から1985年までを「婦人と開発のための10年」とし、男女平等と婦人の地位の向上をめざして、婦人問題を解消するための行動を世界各国に呼びかけました。

現在、政府レベルで「国内行動計画」が、都レベルで「東京都行動計画」が発表されています。

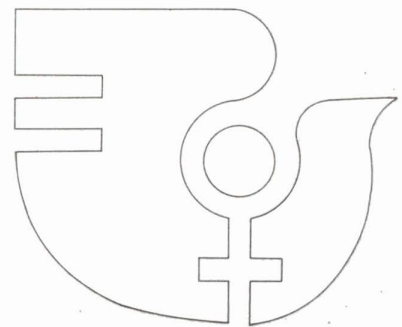
足立区長は「足立区婦人行動計画」の策定に向けて、足立区婦人問題会議に、足立区の婦人問題の解決と女性の地位向上を図るための基本的な考え方と施策の方向について諮問しました。

これを受けて足立区婦人問題会議では、1980年11月から今年の3月まで1年5ヵ月にわたり、延べ68回の審議を重ね、この度、その中間報告として「足立区婦人行動計画策定にあたっての基本的な考え方と施策の方向について一足立区婦人問題会議中間答申一」を発表しました。

この「区のお知らせ」特集号では、中間答申の内容のあらましをご紹介します。くわしくは、婦人対策担当へお問い合わせください

「男女平等の世の中だから、婦人問題なんてないんじゃないの？」
こんな意見を言う人もいます。でも、本当にそうでしょうか。家事、育児に追われて家庭にいる女性を、
「だから女は視野が狭い」と、簡単に決めつけていませんか。
女性の責務が男性より多いのを、「女だからあたりまえ」と、無意識に思い込んでいませんか。
「女なら」「女だから」……そんな言葉、女性自身もまた使われてしまっています。

「婦人問題って何。」
こんな声をよく聞きます。婦人問題は、女性への差別や偏見を「のぞく」女性へのびびかな生き方を表現する「J」。



「女性ばかりがびびる、男性だろ」といいたくはないから。」
そうです。
婦人問題を考えることは、男性の新しい生き方を発見すること。
女性の社会参加は、女性の目と社会の「びびる」を見直すこと。
男性と女性が互いに理解しあう、そして地に足のついた生き方を表現しようとする「J」それが、婦人問題なのです。

（国際婦人年シンボルマーク）昭和の「J」は、戦後の女性誌、その「J」をデザイン化したもので



女性の社会参加を 支える福祉の実現

福祉

女性を取りまく福祉問題は、保育、老人、病人等の介・看護、母子家庭、生活保護家庭、中高年独身女性の問題など数多くの複雑な問題があります。社会保障の面では、年金、生活保護基準額の男女差などが問題となっており、私達が普通「福祉」と呼んでいる圧倒的な部分を女性が占めているのです。

女性の肩に重い福祉

現在、子育てや老人、病人等の介・看護がほとんど女性の手にまわっている現状があります。足立区の寝たきり老人の介・看護の九割近くを、妻・嫁・娘といたった場の女性がしています。しかもこれらの女性の四八％が睡眠不足を、六五％が疲れのひどさを訴えています。(参考：表4-1、2、4、3)

このような仕事がつて女性の手だけで行われる結果おそれるさまざまな問題を解決してゆくに、行政的、地域的な面から対策考えられねばなりません。同時に家庭でも、家族全員が福祉的役割を果たせるような家族の関係づくりが必要で、

きびしい女性の老後

足立区の65歳以上の区民四万五千四百八人中、女性は五・七％います。特に一人暮らしの老齢女性は



〈表4-1〉 保育所数 措置・未措置児童の推移

	42	46	50	54	
保育所数	公立	319	536	756	900
	私立	342	419	483	560
措置児童数(A)	47,779	81,974	116,848	144,381	
未措置児童数(A)	6,177	21,837	31,804	—	

各年4月1日 東京都民生局業務報告

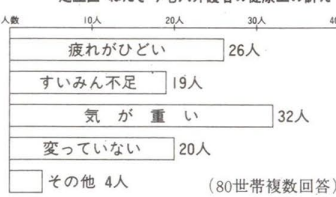
〈表4-2〉

足立区ねたきり老人介護者の状況

介護者	比率
配偶者	51%
嫁	23%
娘	24%
息子	10%
孫	5%
その他	5%

〈表4-3〉

足立区ねたきり老人介護者の健康上の訴え



(80世帯複数回答)

現在の状況を考えると、もはやそれだけでは対応しきれなくなっています。核家族化や、子どもの数の減少、地域社会の人間関係の弱まり、安全な遊び場の不足などにより、子どもを取りまく環境は、子どもの集団の中で発達保証ができていくなくなっています。

母親の社会参加を支え、子どもの集団の中で発達保証という点からも、保育の考え方をなおす必要があります。(参考：表4-1)

女性の老後を豊かにするものとしてゆくためには、女性の年金制度の見直しや、就労の促進、社会参加の条件づくり、公的、地域的な福祉サービスなどが考えられます。また女性の側の自立への意欲も欠かすことはできません。

高まる保育の必要性

女性の経済的自立と社会参加を支えるためには、保育所が必要不可欠なものです。

現在の保育の考え方は、母親の労働などによって、保育に欠ける子どもを対象にしているため、さまざまな保育ニーズが高まっています。

女性の老後を豊かにするものとしてゆくためには、女性の年金制度の見直しや、就労の促進、社会参加の条件づくり、公的、地域的な福祉サービスなどが考えられます。また女性の側の自立への意欲も欠かすことはできません。

高まる保育の必要性

女性の経済的自立と社会参加を支えるためには、保育所が必要不可欠なものです。

現在の保育の考え方は、母親の労働などによって、保育に欠ける子どもを対象にしているため、さまざまな保育ニーズが高まっています。

最近、足立区でも30代後半からの母親のパートなどの就労が増えています。これらの母親が安心して働けるためにも、子ども達の心身の不安を取り除き、放課後の生活を安心して過ごせるようにするためにも学童保育はますます重要な課題となつていきます。足立区では、学童保育施設が、質・量とも未整備の状況にあります。

本来、保育や子育ては、家庭、地域、行政が一体となって行われるべきもので、学童保育もその例外ではありません。

学童保育施設の増設と、保育内容の改善が望まれます。

このような環境の悪化がもたらす母性への影響を見のがすことはできません。全国的に未婚児や死産率は減つてきたのに対し、足立区では、ここ数年横ばい状態にあります。

自立の第一歩は健康から

女性の平均寿命が78歳を越え、日本は世界でも名だたる長寿国となりました。しかし、反面、大気汚染や食品の安全性、生活を取りまく環境は悪化し、不安感も増大しています。足立区では特に幹線道路周辺の住民にとって、排気ガスは深刻な問題となつて

望まれる男性の家庭への参加

下の表は、各国の男性が何時間ぐらい家庭の仕事をしているかを表したものです。これを見たとお日本の男性は先進国の中で一番家の仕事をしています。ちなみに総理府が76年に行った調査によると、共働き以外の夫の調査平均一日の家事時間が7分、共働きの夫は6分となつています。

このように日本の家庭は、性に

よる役割の固定化が強く、家事や子育てを女性のみに行う伝統的な男性優位の家庭が一般的です。

足立区の調査でも、男性優位の家庭生活を営んでいる人が六四三％あります。家事や子育てが大変な共同責任と考えている人は大変少く、まだまだ男女平等な家庭づくりは確立していないといえます。

足立区は、自営業や家内労働者として働く人を含めて共働きをして

過労となりがちな女性

厚生省によると、昭和三十年の有病率は、千人に対して三十八人だったのが、昭和五三年には百九・四人と約三倍にも増えています。そして、表4-4を見

自立の第一歩は健康から

また安全性の疑い食品などが店頭に並んでいる中で、情報も少なく、個人的な努力では食品の安全性を守りきれない状態です。区内には安全性の高い食品を共同購入している消費者グループもありますが、まだまだ少なく、こうした場での行政の果たす役割は大きいといえます。

望まれる男性の家庭への参加

生活保護を受けている人の比率が他の区と比べてとても高いという特徴があります。

このような家庭の多くは、家事や子育てを女性一人の手で行っていることが多く、働く妻や母親の負担が大きく問題となつています。

一方、経済的な必要から、働きに行かなくても、家事や育児、老人や病人の介護に追われて、働かざるを得ない人も少なくありません。

このような状況を変えてゆくために、男性はもっと家庭の場へ参加してゆくべきです。男女が共に、家事、育児と職業を両立できるように努力がなされれば、伝統的な役割分担意識から解放された真の男女平等を創造する大きな力となるのです。

「男は男らしく、女は女らしく」という「らしき教育」は性別役割分業観を子どもに植えつけ、男と女をわけて育てる選択の幅をせましく、男女平等な家庭づくりは難しくなります。

主体的、自立的な男女に育て上げるためには、まず家庭教育のあり方をしっかりと見直す必要があります。

望まれる男性の家庭への参加

「男は男らしく、女は女らしく」という「らしき教育」は性別役割分業観を子どもに植えつけ、男と女をわけて育てる選択の幅をせましく、男女平等な家庭づくりは難しくなります。

主体的、自立的な男女に育て上げるためには、まず家庭教育のあり方をしっかりと見直す必要があります。

〈表4-4〉

有病率(人口千対)の年次推移

	昭和35年	昭和45年	昭和53年
総数	63.6	93.6	110.9
男	63.0	89.5	105.7
女	64.2	97.5	115.9

ゆがむ性意識の是正

近年犯罪が増加の一途をたどり、足立区も例外ではありません。

有病率が高いのに気づかれないで、家庭の主婦や、自営業・農業者を営んでいる女性達は、定期健康診断の機会に恵まれません。病気の発見も遅れがちです。また家事、育児は女の仕事という考え方に男性も女性もとられていくことが多いため、働く女性はひとりで全てをこなさし、過労きみとなつて

教育責任を負う母親

犯罪の増加と相まって、校内暴力が大きな社会問題となつていきました。子どもがこうした行動は、学歴社会的の厳しい受検体制や、子どもを取りまくさまざまな社会的文化的条件で起きているにもかかわらず、その責任が家事・育児の担当者である母親にすべつたという傾向があります。

共々支えよう日常生活

家庭は、人間生活の基本的な単位として、私達の意識や行動のあり方に深く関わっています。その家庭においてこそ、男女が共に日常生活を支え、相互に尊重しあう人間関係をつくること、婦人問題の解決に大きな力となります。

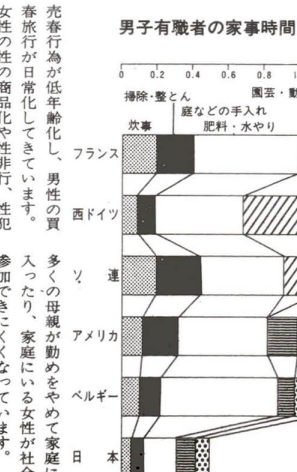
健康とは本来、守つてゆくものではなく、自ら管理し、保持、増進に努めるものです。そのことなくして単に検査や治療だけをしても、また病気を繰り返すことになりかねません。「自らの手による主体的な健康管理」が必要なのです。

健康とは本来、守つてゆくものではなく、自ら管理し、保持、増進に努めるものです。そのことなくして単に検査や治療だけをしても、また病気を繰り返すことになりかねません。「自らの手による主体的な健康管理」が必要なのです。

共々支えよう日常生活

家庭は、人間生活の基本的な単位として、私達の意識や行動のあり方に深く関わっています。その家庭においてこそ、男女が共に日常生活を支え、相互に尊重しあう人間関係をつくること、婦人問題の解決に大きな力となります。

男子有職者の家事時間(国際比較)



健康とは本来、守つてゆくものではなく、自ら管理し、保持、増進に努めるものです。そのことなくして単に検査や治療だけをしても、また病気を繰り返すことになりかねません。「自らの手による主体的な健康管理」が必要なのです。

健康とは本来、守つてゆくものではなく、自ら管理し、保持、増進に努めるものです。そのことなくして単に検査や治療だけをしても、また病気を繰り返すことになりかねません。「自らの手による主体的な健康管理」が必要なのです。

健康とは本来、守つてゆくものではなく、自ら管理し、保持、増進に努めるものです。そのことなくして単に検査や治療だけをしても、また病気を繰り返すことになりかねません。「自らの手による主体的な健康管理」が必要なのです。

健康とは本来、守つてゆくものではなく、自ら管理し、保持、増進に努めるものです。そのことなくして単に検査や治療だけをしても、また病気を繰り返すことになりかねません。「自らの手による主体的な健康管理」が必要なのです。